

## 伊豆諸島の地下生菌相の特徴 (予報)

折原貴道\* (神奈川県立生命の星・地球博物館)

担子菌門および子囊菌門における地下生菌 (シクエストレート菌) の子実体は、胞子形成部 (グレバ) が外皮に被われた状態で成熟し、胞子射出能をほとんどの場合欠如しているため、一般的な地上生菌のように自力で担子胞子もしくは子嚢胞子を風散布させることができない。その代わり、地下生菌子実体の多くは様々なにおいを有し、それにより節足動物や小型哺乳類などを誘引させ、摂食してもらうことで胞子を遠方へ散布していると考えられている。

演者は近年、共同研究者らとともに、日本国内の島嶼域において地下生菌の調査を継続し、島嶼の地下生菌の分布や遺伝的分化のパターンを比較解析している。海洋島である伊豆諸島においては、上述のような地下生菌の胞子分散様式を前提とすると、地下生菌多様性は低いことが予想される。演者は 2014 年以降伊豆諸島での地下生菌調査を集中的に行っており、現在も継続中であるが、本講演ではその調査結果の予報的報告を行う。

これまでに伊豆大島、神津島、三宅島、御蔵島および八丈島で野外調査を実施し、それらの結果と演者の所属する博物館の収蔵標本情報から、12 属 22 種 (未記載種を含む) の担子菌門および子囊菌門の地下生菌が確認された。中でも、八丈島においては、8 属 14 種の地下生菌の分布が確認され、調査回数之差はあるものの、伊豆諸島において特に高い地下生菌多様性が認められた。また、これらのうち、国内の他地域産同種標本からも核 rDNA ITS-LSU 領域のシーケンスが得られた 8 属 11 種については、伊豆諸島産と国内他地域産標本の間で、明瞭な遺伝的分化は確認されなかった。その一方、本州の伊豆諸島に近い地域 (伊豆半島・神奈川県・東京都) での分布が確認されている地下生担子菌類および子囊菌類のうち、*Octaviania* (ホシミノタマタケ属) subg. *Octaviania* (= subg. *Fulvoglobus* Orihara) の 1 クレードおよび 12 属の地下生菌が伊豆諸島においてまだ発生が確認されていない。発生頻度が少なく比較困難な系統を除外すると、これらの属および属内クレードは、現在のところ国内分布が日本本土に限られるもの、もしくは南西諸島にも分布しているが同種内の本土の系統との遺伝的分化 (核 rDNA ITS-LSU 領域) が確認されたものであった。以上の結果から、伊豆諸島における地下生菌の多様性は決して低くないが、伊豆諸島に分布している系統は、一般的なきのこ類のように海域を越えた広域分散を行うことができるものに限られることが推察される。今後、伊豆諸島に分布を広げた地下生菌とそうでない地下生菌との間の遺伝的分化パターンのより詳細な比較を進める予定である。